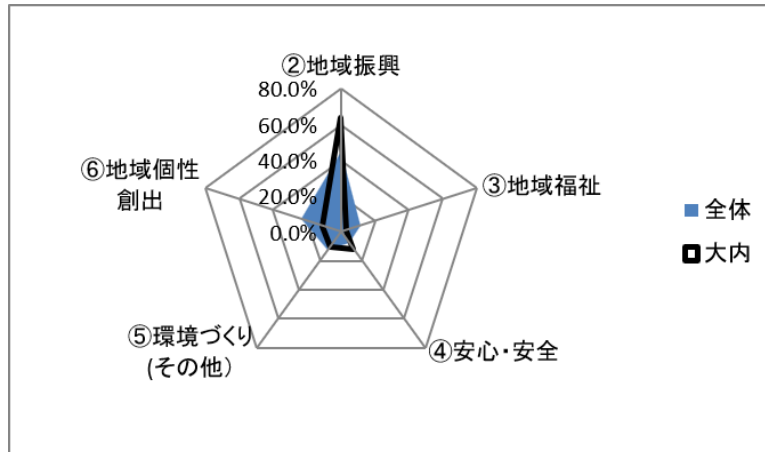


大内まちづくり協議会 地域づくり交付金事業概要(令和7年度)

■地域の情報

地域人口	22,084人	自治会数	31
世帯数	9,809世帯	自治会加入率	72.5%

※数値は、令和8年4月1日のもの



■決算状況

交付金配分枠	16,159,000 円
交付金決算額	16,088,950 円
その他収入	1,072,239 円
交付金決算額／配分額	99.6%

各分野の決算

①協議会運営	5,134,638 円
②地域振興	5,048,914 円
③地域福祉	234,228 円
④安心・安全	922,757 円
⑤環境づくり(土木工事)	4,096,000 円
⑤環境づくり(その他)	846,995 円
⑥地域個性創出	877,657 円
決算総額	17,161,189 円

■地域づくりの活動方針(テーマ)

元気！ 笑顔！ とともに支え合う大内

■総括

第3期大内まちづくり計画に則って活動を進めており、特に、各種の地域課題をみんなで解決していこうとする姿勢「ともに支え合う」を意識して、いろいろな事業を展開してきた。大内まつりやおうち産業フェアなど、各関係団体と連携を取りながら、地域住民がともに支え合い、活力ある地域づくりを進めている。

■分野別事業名

① 協議会運営	事務局長給与、事務局員給与、事務費等
② 地域振興	第46回大内まつり、大内地区健康体育祭、地域産業振興事業、大内ふるさとカレンダー作成、大内地区じんけん学習まちづくり大会、大内子ども未来プロジェクト、大内地区広報誌等印刷事業、防災キャンプ企画・運営事業、大内まちづくり協議会情報共有、第4期まちづくり計画策定事業
③ 地域福祉	元気あっぶ健康講座、大内地区老人大学開講、健康増進スポーツ大会、子育て応援講座、みんなで語ろう講座
④ 安心・安全	自主防災活動支援事業、災害対策の充実、巡回パトロール、大内っ子まもり隊活動の推進、反射鏡設置補助、交通安全教室の開催、
⑤ 環境づくり	土木工事(法定外公共物等整備)、交通安全環境施設設置整備、河川環境美化活動助成金交付、里山河川ふれあい補助、不法投棄防止運動
⑥ 地域個性創出	標語ポスターの作成、標語看板の作成、食農教育、夏のフェスティバル、大内コードモジカン、三世代交流輪飾り・ミニ門松づくり、大内ごみゼロ！プロジェクト、大内史跡探訪会、地域協育ネット支援、教育講演支援、学校環境整備支援

■重点的に取り組んだ事業

①	事業名	大内コードモジカン	決算額	139,263円
	目的	各自治会・町内会単位で市民活動団体のボランティアスタッフと協力し、子どもの体験活動(宿題教室、もの作り教室等)を行い、同じ地域に住む子ども達と大人の新たな絆づくりを目的とする。		
	実施内容	学習会や芋掘りなど		
	実施時期	令和7年6月～令和8年1月		
	参加人数	6自治会の役員、子ども達 約100名		
	成果	夏休み等の長期休業日を活用して、各自治(町内)会単位で、子どもの体験活動(例:イモの苗植え収穫体験・宿題教室等)を実施した。今年度は、新たに5団体の参加があった。子どもと大人の新たな絆づくりのきっかけとなっている。		
	評価	子ども達の参加が多数あり、世代間交流が活性化し楽しい行事となっている。		
	今後に向けて	来年度も引き続き実施する。		
②	事業名	元気あっぶ健康講座	決算額	44,702円
	目的	参加者の健康についての知識と実践・交流を深めることを目的とする。		
	実施内容	活動量計の貸出を行い、保健師や講師による講話や運動などを行った。		
	実施時期	令和7年7月～令和7年11月		
	参加人数	5回の講座で、延べ91名		
	成果	健康福祉部会がシニア世代を対象に5回のプログラムで毎年開催している。各回の単独申し込みも可能とし、希望者には活動量計の貸出も行っている。無理なく楽しく動ける講座には参加者も多い。		
	評価	運動量の把握に加え、保健師、栄養士の個別健康指導が効果的であった。		
	今後に向けて	来年度も引き続き実施する。		
③	事業名	大内子ども未来プロジェクト	決算額	18,199円
	目的	小・中・高の校種の違う子ども達が集まって地域課題について考える熟議に取り組むことを目的とする。		
	実施内容	住みよい大内地域にするためには。というテーマでの熟議の開催		
	実施時期	令和7年9月23日(火・祝)、11月1日(土)		
	参加人数	1回目15人、2回目24人(大内小・大内南小・大内中・中央高校の生徒と市議会議員4人)		
	成果	地域づくり活動への提案事項について、子ども達の視点で考えた。		
	評価	2回目の熟議で市議会議員を交えて意見交換し、地域づくり活動を行うために、異年齢で話し合うことが重要であった。		
	今後に向けて	地域課題について、継続的に子ども目線で検討していきたい。		